

一般質問(要旨)

●質問者

9月7日(金)

戸井田 和之 (いばらき自民党)

本澤 徹 (無所属)

中村 修 (いばらき自民党)

9月10日(月)

先崎 光 (いばらき自民党)

高崎 進 (公明党)

磯崎 達也 (いばらき自民党)

9月11日(火)

設楽 詠美子 (県民フォーラム)

飯田 智男 (自民県政クラブ)

岡田 拓也 (いばらき自民党)

9月12日(水)

上野 高志 (日本共産党)

安藤 真理子 (いばらき自民党)

石井 邦一 (いばらき自民党)



戸井田 和之 議員  
いばらき自民党  
石岡市選出  
一括方式

つくばエクスプレスの石岡経由  
茨城空港延伸

議員 石岡市は企業集積や豊かな自然環境など、地域資源が数多くあり、高速道路や鉄道など、優れた交通網も整っている。石岡駅を経由したTXの茨城空港延伸は、本県全体の経済や観光などを活性化すると考えるが、所見は。  
知事 県内延伸の実現には、必要な資金の調達や、採算性の確保などの問題もあるが、ルートも含めて幅広く検討を行い、実現に向けてあらゆる可能性を模索しながら、しっかりと取り組んでいく。

茨城の魅力ある祭りを生かした  
観光振興

議員 「石岡のおまつり」など茨城の魅力ある祭りを生かして、PRや観光振興に取り組むべきであると考えているが、所見は。  
知事 情報発信の充実と体験型観光による誘客促進に重点的に取り組む。また、体験型観光に取り組み市町村を支援するなど、関係者との連携を強化しながら、一体的なプロモーションを展開し、観光振興に全力で取り組む。  
(ほかに、競争力のある強い梨産地の育成、恋瀬川の氾濫対策なども質問)



石岡のおまつり



本澤 徹 議員  
無所属  
田市選出  
一括方式

公共交通の維持・確保

議員 地域にとつて最も望ましい公共交通の維持・確保に向け、今後どのように市町村と連携し、また、市町村を支援していくのか。  
政策企画部長 公共交通空白地域の解消を図るため、今年度からコミュニティ交通の新規導入などに取り組む市町村も支援の対象に加えた。このほか、県内四地域に設置した協議会など、さまざまな機会を活用し、市町村と連携しながら、地域の公共交通の維持・確保に向けて必要な支援を行っていく。

農業における外国人材の活用

議員 外国人材に関する制度が大きく変わる今、茨城農業を支える外国人材について真剣に考えるべきだが、今後の活用の方向性は。  
農林水産部長 儲かる農業の実現には、外国人材の活用が必要である。外国人材に選ばれる茨城となるためには、住環境や相談体制などの受け入れ環境の整備が重要であり、関係団体とも連携し、環境整備に向けた対応を検討するとともに、制度運用の体制を整えていく。  
(ほかに、東海第二発電所の再稼働、保健所の再編なども質問)



鉾田市内を走る路線バス



先崎 光 議員  
いばらき自民党  
那珂市選出  
分割方式

国体後のスポーツ資源を  
活用した地域振興

議員 選手の育成、おもてなし機運の向上、施設充実などの国体レガシーや県内のスポーツ資源を活用した地域振興を推進する専門部局が必要と考えるが、所見は。  
知事 スポーツは、現代社会が抱えるさまざまな課題を解決する力を持つと考えており、今後、スポーツを地域資源と捉え、活用できる人材の育成などに取り組んでいく。専門組織の設置については、他の自治体の状況や県民意識などを踏まえ可能性を検討していく。

広域農道バードラインの  
県道昇格と整備推進

議員 県道菅谷小原内水戸線交差点から国道一八号までの区間におけるバードラインは交通量が増加するなどしており、県道に昇格させ整備を推進すべきと考えるが、所見は。  
土木部長 当区間は那珂市道であり、四車線で都市計画決定されている。県道昇格については将来の交通需要も見据え、那珂市とも調整しながら、県道として整備する必要性などを総合的に考えていく。  
(ほかに、北方領土学習、県道額田南郷田彦線バイパス整備なども質問)



国体・障害者スポーツ大会  
カウントダウンボード点灯式



中村 修 議員  
いばらき自民党  
取手市選出  
一括方式

国道二九四号の拡幅

議員 本路線は地域の経済や産業を支えるとともに常磐道や圏央道へ接続する大変重要な幹線道路である。早期の四車線化が強く望まれているが、今後の整備見通しは。  
土木部長 白山地区の約七百メートルについて、今年度中の暫定三車線供用を目指すとともに、四車線化に向け対応策を検討していく。その西側の未整備区間三・一キロについては、特に渋滞の著しい新取手駅前の交差点を含む約八百メートルの整備に向けて準備を進める。



整備が進む国道294号(取手市)

保幼小の接続(学びの連続性)

議員 小一プロブレム※といった問題に対処するには、幼児教育施設での学びや生活と、小学校教育を円滑に接続していくことが大切と考えるが、そのための方策は。  
教育長 茨城県保幼小接続カリキュラムの活用によって情報共有を図り、市町村幼児教育アドバイザーなど中心的な役割を担う人材を育成している。相互参観の取り組みを県内に広めるなど円滑な接続を支援していく。  
(ほかに、保育士の確保、儲かる農業の実現なども質問)

新しい茨城づくり調査特別委員会  
「新たな県総合計画の在り方」について提言

本委員会(西條昌良委員長)では、「新たな県総合計画の在り方」についての調査・検討結果を、九月の第五回委員会で提言としてとりまとめ、今定例会最終日(九月二十七日)に中間報告を行いました。  
提言では、「誰一人取り残さない社会づくり」や「セーフティネット対策」、「県の枠を超えた広域ネットワーク強化」などの重要性を述べ、趣旨を尊重して計画策定に当たるよう知事に求めました。



大井川知事に提言書を手渡す山岡議長と西條委員長(写真左から常井副議長、議長、知事、委員長、萩原副委員長)

※【小一プロブレム】…小学校1年生などの教室において、学習に集中できない、教師の話が聞けずに授業が成立しないなど、学級がうまく機能しない状況。